

# 響け、日本の大地の鼓動

第22回  
健康まつり

## わらび座がやってきます

9月29日(日)、福祉体育館・福祉公民館



# さるかどした

八戸医療生活協同組合  
〒031-0001  
八戸市類家5丁目38-20  
発行責任者 内田弘志  
TEL0178-71-3456

第22回健康まつりが近づいてきました。お楽しみステージ、保健コーナーをはじめとする各種コーナー、各支部の模擬店など医療生協ならではの企画でみなさんをお待ちしています。詳しい内容はチラシをご覧ください。

小西礼子さん  
オープニングで八戸  
の魅力を歌います

今年の健康まつりは、地元出身の歌手小西礼子さんのオープニングステージで始まります。「八戸の女」、「馬淵川ブルース」など八戸の魅力のステージをお楽しみください。



わらび座の  
躍動あふれる舞台が  
心に響きます



メインステージは、民謡歌謡団わらび座のみなさんです。秋田県仙北市のたざわこ芸術村を本拠地に全国公演を重ね、八戸でも「東北の鬼」、「アテルイ・北の耀星」などでおなじみです。創立60周年を迎えるわらび座の躍動あふれる舞台から元気をもらいましょう。

福祉公民館内の会場では、健康チェック、体力測定コーナーの他に、健康相談、栄養相談、お薬相談のコーナーがあります。介護用品展示コーナーでは販売もしています。

気軽に相談ください

健康まつりを支える協力券(300円)の普及にご協力ください。お楽しみ抽選券付きです。



### 健康まつりで至福のひとときを

第22回健康まつり実行委員長

東野英子

今年も皆様がお楽しみになっているのでご覧になった方も多いためと思います。

でも今回は「響け、日本の大地の鼓動」と銘打って、太鼓、歌、踊りが主体です。迫力ある演奏は間違いなく私たちの心を動かすことです。

このひとときは、世の中を暗くしているニュースを忘れ楽しんでください。多くの方々のお越しをお待ちしています。



### 生協診療所だより

#### ◆インフルエンザ予防接種◆

《65歳以上は予約なしです》

○期間 10月20日～12月20日

○料金 1,000円(一律)

但し、八戸市民、階上町民

《64歳までは予約制です》

○期間 10月20日～12月27日

○料金 2,000円(一律)

○予約は10月1日から受付ます。

受付専用電話番号 20-0546 でお

願います。

#### ◆休診日◆

9月	30日(土)
10月	29日(土)
11月	28日(土)

※火、水曜日午後休診です。

認知症の人と家族の会青森県支部が募集した「認知症のほつと三行レター」で受賞した福田育子さんの作品です。9月8日に開かれる八戸市の認知症フォーラムで表彰されます。



「こちろさん  
あーおーしかった」と  
ホールの響く大きな声  
みんなが止まる  
テーマみんなにこりまう  
大家族だね

☆優秀賞に輝きました☆  
みなみるいけの家福田育子さん

健康まつりのテーマ  
「健康をつくる。平和をつくる。  
いのち輝く社会をつくる。」

全国の医療生協で構成する日本医療福祉生活協同組合連合会が、6月の総会で「医療福祉生協の理念」を決めました。それが上記の「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」です。



## 虹の旗

麻生大臣が「ナチスの手口を学んだら」と発言。後で取り消したことが、一度発言したことは消えるものではない。このころCS放送でヨーロッパのドรามを視聴するのだが、サスペンスものでスウェーデン国家警察がある殺人事件の捜査の中で事件の背景にナチスの第二次世界大戦中の犯罪が明らかになっていく過程が描かれ、ナチスのメンバーの一人がイタリアで右翼政党に影響力を持つ表の顔とマフィアの首領としての裏の顔を持つ者として登場、やがてそれらが暴露されて行く。事ほど左様に諸外国では、ナチスは未だに追及されるべき存在と認識されている。

こうした状況を発言して日本の政治家はどのように考えているのだろうか。第二次世界大戦中、日本軍国主義、ドイツナチズム、イタリアファシズムは同盟を結び世界と闘い敗北、戦後の民主主義、自由、平和の戦後世界が築かれてきた。未だにナチズムを引き合いに出す日本の右翼政治家に驚くばかりである。

こうした政治家がいま社会保障の改悪に力を注いでいる。社会保障の改悪と右翼的政治思想とは軌を一にしている。いっそうの警戒心が大事。生活委員会 せいひの

【付記】前号でお知らせした高齢者住宅建設事業は、7月31日に設計士に対する説明会を開き、10月1日には各社の設計士による説明会(プレゼンテーション)を行うことになっています。その後、建設会社の人札へと進み、2015年度内のオープンを目指します。

○八戸医療生協現況(2013年7月31日現在) ○組合員総数 9,676名 ○出資金総額 379,971千円 ○一人当たり出資金 39,269円

# “放射能のストレスから解放される3日間でした”

## リフレッシュ休暇 in 八戸～今年も福島から5家族を招待



三社大祭の「お通り」を観覧するみなさん



2日目、奥入瀬・十和田湖コースを選ばれたみなさん

八戸医療生協は、今年も三社大祭に合わせ福島県の医療生協（郡山医療生協と福島医療生協）から5家族18名のみなさんを招待し、8月1日から3日間、日ごろのご苦勞を忘れて夏休みのひとときをくつろいでもらいました。

寄せられた感想文からいくつかを紹介します。

**八戸を充分満喫できました**

◆三社大祭は初めてで、スケールの大きさにびっくりしました。八戸を充分満喫できました。

◆初めて八戸にきました。種差海岸から岬にかけてのロケーションの美しさに感激しました。

◆三社大祭は一度は観たいと思っていました。実際目にして想像以上の迫力とスケールの大きさに感動しました。ネプタに劣らない祭りです。

◆奥入瀬渓流も光が差し込んでとてもきれいでした。雲井の滝は高さがあり、銚子大滝は迫力がありました。十和田湖もキレイで、遊覧船も気持ちよかったです。

◆夏休みの楽しい思い出ができました。またバードパークにいきたいです。

◆お祭りはすぐくはく力があつた。湖に足を入れて気持ちよかったです。プールで友だちと楽しく遊んだ。料理がおいしかったです。

◆福島はまだまだ線量の高いところが多く、特に草花の生えているところや土のあるところ等は高いので、子どもたちはそういう所に触れないように指導されています。今回、何も気にすることなく遊んで、それを安心して見ていられた環境は、当たり前だけど良かったなあと思いました。

**子どもたちに安心してきる環境を**

◆震災による原発事故が発生しなければ熱い心でつながる形は見られなかったでしょうね。複雑な気持ちですが、福島の状態を忘れないよう、又、忘れられないよう発信し続けなければいけないと思います。

◆いろいろな感動しましたが、やっぱりこの三日間の一番は、まるで旅行会社かと思う程の実行委員会の皆様の気配りの素晴らしさでした。最初から最後まで本当に親切にしてくださいました。おもてなしの心を学ばせていただいたので、これからの看護に役立ていきたいと思えます。ありがとうございました。

◆何よりも放射能のストレスから解放される3日間



(バードパーク前で)

◆放射能から解放されて心身ともにリフレッシュできました。

**おもてなしの心を学ばせて**

◆いろいろな感動しましたが、やっぱりこの三日間の一番は、まるで旅行会社かと思う程の実行委員会の皆様の気配りの素晴らしさでした。最初から最後まで本当に親切にしてくださいました。おもてなしの心を学ばせていただいたので、これからの看護に役立ていきたいと思えます。ありがとうございました。

## 組合員活動あらかると



◆平和・社会保障委員会 10月9日(水)、青森市で開催する第15回青森県高齢者大会の参加者を各支部を通して募っています。元日介連会長宇都宮健児氏の記念講演と他二つの分科会があります。詳しいことは本部又は支部にお問い合わせください。



◆事業所利用委員会 10月12日(土)、午前10時から午後1時まで医療生協組合センターで「介護なんでも語ろう会」を開催します。内容は①オムツの学習会(講師は株式会社ケアテック八戸営業所下道下道さん)、②参加者のみなさんの介護体験等の意見交換。詳しいことは各事業所にお聞きください。

健康づくりチャレンジ！  
健康づくり月間のご案内  
10月1日～11月30日



◆湊・くろねこ班 7月3日(水)、4名で葦毛崎から白浜海岸までのウォーク班会。道々の花々に感激。



◆三中支部 7月24日(水)、福祉公民館で支部総会。総会の前には荒岡専務理事より高齢者住宅建設事業についての報告と話し合い。参加者30名。



◆下長支部 7月27日(土)、大野キャンパスで支部総会。総会の前には馬渡幸和さんを講師に「血管の若返り」の勉強会。16名参加。



◆二中支部 7月14日(日)、三八城公民館で支部総会兼ふれあい昼食会。40名参加。八戸女性まちづくり塾生の会のみなさんによる寸劇「出前消費者講座」で高齢者詐欺について勉強。断るときははっきりと。※左写真

## 長崎(原水爆禁止世界大会)へ行ってきました

みなみりいけの家・介護福祉士 坂本浩一  
青森県代表団14名の一員として八戸医療生協から参加してきました。募金して下さったみなさん、折り鶴を託して下さったみなさん、本当にありがとうございました。昭和20年8月9日に原爆が投下されて長崎の街並みは一瞬にして破壊され、多くの犠牲者を出したことは、決して忘れてはなりません。「ノーモア ヒロシマ」「ノーモア ナガサキ」「ノーモア フクシマ」「ノーモア ヒバクシャ」と参加者2000名が叫んでいました。日本も世界も思いは一緒だと強く感じてきました。自分にとって大きな経験となりました。核兵器廃絶のためにがんばりたいと思います。



前列左端が坂本浩一さん

◆シリーズ古玉晨二の辻説法⑭◆  
プレッシャー

忽然とじくなる方がいる。正部家先生然り、中里元市長さんetc。私が見事と思うのは、病に伏してから旅立つまでの期間。絶妙のタイミングと感ずる。私の余命も後いくら？先輩諸兄を見習ったようなあの世行きのキップを手に入れたいものと思ふ。

老朽化した身体は、神経系なのか筋肉痛なのか、目を変え、所を変えて、よく軌む。痛みとも痺れともとれるものだが、八十年余の酷使に耐えたもの、それが生きて証拠だとも思う。

「めでたくボンと逝く」死を語り合えば生き方が変わる。と副題がついている。語り合える相手がない。臨終に立ち会う医師、納棺夫、和尚様もそうか。死を恐れるのは、この世に未練があるから。果たして「志」があるからだろうか。それは悠久の大義、誰かが引き継いでくれると、悟る。

私の場合、肉体の痛みを感じるのは「生きている証拠」。それに勝つか、負けるかが勝負！自らの意志にプレッシャーをかけ、動き続ける。その事のご褒美が「めでたくボンと」なるだろうと。この頃の心境である。